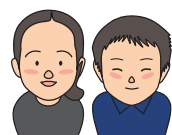


平塚宿をゆく



江戸→

豆記者



市川 一帆
矢島 有紗

① 江戸方見附から始まる、平塚宿

平塚宿に着いた旅人が最初に見たもの、それは道の左右に置かれた高さ一・五メートルほどの石垣でした。

これは見附といって、宿の入り口には必ず置かれていたものです。石垣の上には土が盛られ、お城の門のような形をしています。この見附は、平塚宿の東と西それぞれの入り口あって、江戸に近い東側にあった見附は江戸方見附と呼ばれました。



江戸方見附跡：大きな石垣ですね

② 脇本陣跡の石碑があったよ

江戸方見附を過ぎると、昔は道の両側にたくさん宿屋がありました。今ではこのあたりの景色もすっかり

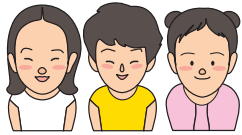


脇本陣跡：いろんな人が泊まった場所だよ

碑が立っています。

脇本陣跡は平塚宿で二番目に大きい宿屋です。江戸時代には、高い身分の人しか泊まらない宿屋がありました。この脇本陣は、主に武士など高い身分の人が泊まっていたのですが、農民や町人も泊まることができました。

豆記者



加藤 佳菜
小島 賢夏
曾我友里佳

③ 昔の掲示板・高札はビッグサイズ

脇本陣跡から大磯方面へ少し歩くと、高札場跡の碑を見つけました。昔ここには、高札という掲示板がありました。高札には放火や毒薬作りといった犯罪の禁止や荷物を運ぶ運賃を定めた幕府からの決まりが書かれていました。大きさは幅一・八

④ 平塚一の高級旅館・本陣

幕府のえらさを示す」という意味が込められていたそうです。

高札場跡から五十メートルくらい西に平塚宿本陣の跡がありました。本陣は平塚宿で一番大きかった宿屋です。大名や公家など身分がとても高い人が泊まりました。今でも高級旅館ですね。敷地は幅三十メートル、奥行き七十メートルとても広く、その上普通の宿屋では造ることができなかった門や床の間を造ることができたそうです。泊まった人は

すくいい気分だったんだろうな。



本陣跡：宿屋の間取り図と一緒に

江戸時代の旅行ガイド

江戸から京都までは長い道のりでした。では、旅をする人たちは、何を目標にこの長い道のりを旅していたのでしょうか。

江戸時代には、道中案内や浪花講定宿帳という本があったそうです。これらは今という旅行のガイドブックで、旅の地図やいい宿屋の情報などがのっていました。平塚宿の情報もつかりとっています。昔の人はこれを見ながら旅をしていたそうです。これなら目的地まで迷わずにたどりつけますね。



道中案内と浪花講定宿帳

昔の枕はかたかった

平塚宿では、どんな枕が使われていたのでしょうか？

わたしたちは博物館に行き、平塚宿で使われていたという枕を見せてもらいました。すると出てきたのはなんと、木の枕でした。木の枕にはうるしが塗ってあり、箱のような形をしています。わたしたちは、その枕で寝てみました。最初は正直、かたくて痛かったです。でも、慣れてくると寝心地は意外によくてびっくり。これならよく眠れて、快適な旅を続けられそうですね。

枕：快眠快眠

